HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学ピア・サポートの設立と展開経緯の整理と今後の課題 : ネットワーク構築支援型ピア・サポートに向けて
Author(s)	岡本, 健
Citation	『Sauvage : 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集』7号プレレビュー会. 2010年12月17日(金). 北海道大学メディア棟105教室.
Issue Date	2010-12-17
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/44484
Type	conference presentation
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	20101217summary.pdf (要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

〔研究ノート〕

北海道大学ピア・サポートの設立と展開経緯の整理と今後の課題
～ネットワーク構築支援型ピア・サポートに向けて～

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
観光創造専攻 博士後期課程
岡本健

【要旨】

近年、ピア・サポートが小学校・中学校・高校・大学などの教育機関、医療の分野、就職支援の分野など、様々な現場に導入されている。ピア・サポートとは、「仲間による支援・援助活動」である(早坂 2010)。早坂(2010)によると、セルフヘルプグループとは、非専門家による対人的援助という意味では類似するところもあるが、「ピア・サポーターとして訓練を受けた者が自覚をもって仲間を支援・援助する」という点で異なっている。

日本の大学では、以下のように導入された。2000 年に文部省高等教育局による「大学における学生生活の充実方策について」という報告書が出され、その中で、学生支援に学生自身を活用することや、サークル、ボランティア等の自主的活動の支援充実などが提唱され、同年に広島大学でピア・サポート活動が開始された。それ以降、名古屋大学、金沢大学、岩手大学、東北大学、名古屋工業大学、九州大学、三重大学、日本福祉大学などで実施されて来ている（早坂 2010, 日吉・岡本 2010)。

早坂(2010)は、学校でのピア・サポーターの役割の分類として以下の 5 点を挙げている。1 点目は「先輩や友人」の役割、2 点目は「相談相手」の役割、3 点目は「調停者」の役割、4 点目は「教育者」の役割、5 点目は「学習支援者」の役割である。大学生活にあっては、様々な悩みを抱えることが多く、制度的ではなくとも、これらの役割を担うアクターは必要となるだろう。しかし、学生のライフスタイルの変化やコミュニケーションのあり方の変化などから、ピア・サポート機能が自然発生しにくい状況、あるいは、そうした機能の恩恵を受けにくい状況が出て来始めている。

こうしたことを背景として、北海道大学では、2009 年 5 月から数回にわたり、ピア・サポート設立準備委員会が開かれ、インテーカーの役割を担うことが決定した。その後、2009 年 11 月からピア・サポート室が開室し、学部生・大学院生あわせて 11 人で活動が行われている（岡本 2010)。

本稿では、北海道大学のピア・サポートの設立と展開を整理するとともに、活動の中で得られたデータから、今後の課題を抽出する。

【参考文献】

岡本健(2010)「学生同士のピア・サポート」『北海道大学高等教育機能開発総合センター Newsletter』, 82, pp.4-5.

早坂浩志(2010)「学生に向けた活動 2 ―授業以外の取組み」日本学生相談学会 50 周年記念誌編集委員会(編)『学生相談ハンドブック』pp.185-201.

日吉大輔・岡本健(2010)「アカデミック・サポートとピア・サポートによる学習支援」『平成 22 年度 IDE 大学セミナー 発表用スライド』【ダウンロード URL】http://hdl.handle.net/2115/43898